



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第11号)

2003年10月1日発行

赤道で逢った人々

- 日本での再会もまた楽しからずや -

昭和39年(1964年)バナナボートに乗った第二次早稲田大学エクアドル・アンデス遠征隊の一行が商業都市グアヤキル港に上陸し、二ヶ月間にわたる赤道直下のアンデス雪山登頂に挑みました。HCJBスタジオからもインター・ビューを前後二回生放送し、最後の番組では、隊員一同腰に手を置き、体をゆすりながら「雪山贊歌」を合唱してもらいました。放送直後、南米のリスナーからは、「日本から来た若者たちの元気のいい歌声にすっかり力づけられ、励まされた」というファンレターが舞い込んだので、リクエストにこたえてなんどか再放送したほどでした。「アンデスの声」の長寿番組のひとつ〈赤道で会いましょう〉はここからはじまつたといつてもいいでしょう。

「敬老の日」に私たちは、当時の隊長、副隊長、隊員たちから食事によばれました。場所は東京永田町の四川飯店、有名な料理の鉄人の店。再会を祝っての乾杯のあと、食事がはじまるまるでタイム・トンネルをくぐりぬけたかのように昔のままの雰囲気でワイワイガヤガヤ……。青春時代の勇気ある行動にまつわるエピソードなどが次々と飛び出し、全員外観とは関係なく、いっせいに若返ったひとときでした。今はそれぞれ違った人生を歩んでいるとはいえ、人生途上における出会いは、「時」をこえた交わりを可能にしてくれるまことに不思議なものであることをあらためて実感させられました。

日本を離れる前日には、門田監督の自宅によばれました。門田監督とは「アンデスの声」の最終番組取材のためキトでご一緒して以来で、同席されたフォトジャーナリスト田島さんと全盲の折り紙作家加瀬さんとは7年ぶりでした。おふたりが世界をとびあるいて活躍されている様子はアンデス小劇場「折り紙の詩」の放送でも紹介しましたが、今回はクロアチアの子どもたちに象をおくるキャンペーンに全力投球。これに同感した門田監督の「ドバルダーン！(こんにちは)エレphant」という題でドキュメント映画がこのほど完成をみました。象を贈る運動のきっかけとなったのは、「折り紙ではなく本物が見たい」という子どもの声にこたえて、日本の少年少女がスリランカの象をクロアチアに届けようということになったのでした。ところが発直前になって政府の許可が下りず、象の贈呈は中断。しかし、せめて象を贈りたいという小さな願いだけでも現地の子どもたちに届けたいと、日本の小中学生に米国人医師パッチ・アダムスさんと楽しい友だちも同行してクロアチアまでの友情と平和の行進がくりひろげられたのです。

この感動のドキュメント映画は自主上映です。詳細は次のところへお問い合わせください。

「ドバルダーン！エレphant」上映委員会事務局 Tel. 03-5303-7455

「人生は出会いである」といわれますが、それだけにめぐりあう人と人とのふれあいを大切にしたいものです。人間はひとりでは生きていけない存在であり、楽しみをともにすれば倍になり、悲しみを分かちあえば半分になるのです。

〈香油と香料は心を喜ばせ、友の慰めはたましいを力づける。友はどんなときにも愛するものだ。〉聖書

HCJB日本語放送担当

在住 尾崎一夫 久子

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://www.hcjb.org/japanese/>)にリスナーコミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://www.hcjb.org/japanese/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページが加わりました。ホームページは引き続き更新作業中のため、まだ不備な点もありますが、皆さんのご利用をお持ちしています。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する] ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、**Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。** ご面倒ですが、[HCJB日本語放送](#)まで別途メールにてお知らせください。

配信の停止 (**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

配信変更先のメールアドレス
(**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

新規登録するメールアドレス

お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
このメールマガジンはコンテンツが大きいため、携帯電話への配信はできません。

Copyright © 2003 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki
1920 Birkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U.S.A.